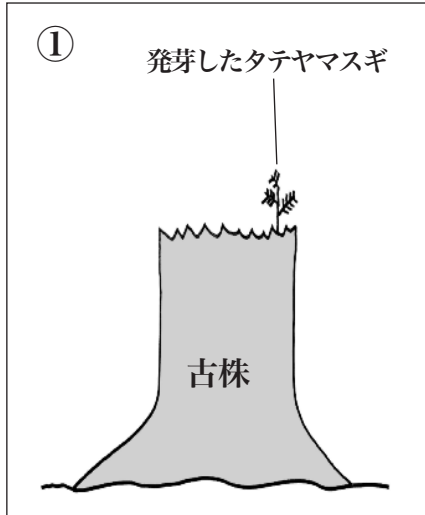
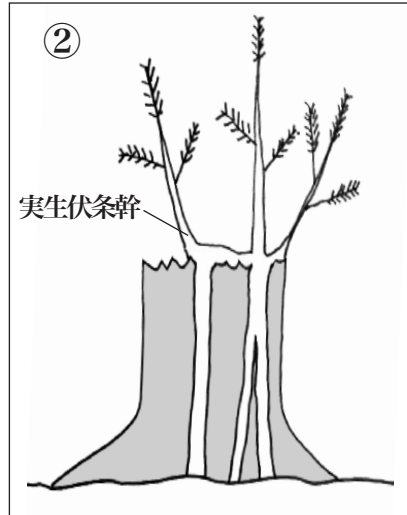


## ■タテヤマスギの古株更新の図解

タテヤマスギは、地面で発芽に成功して一本杉になる確立が低く、多くは古株上で発芽に成功して、巨大化するものが多い。このため異様な樹形になる。タテヤマスギの生命力の旺盛さに驚かされる。



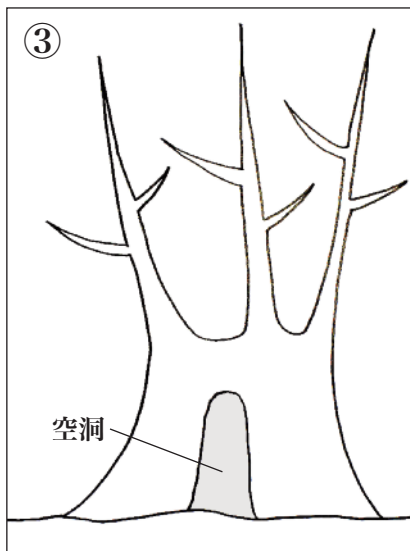
朽ちたタテヤマスギの古株に着生したタテヤマスギが発芽に成功する。破損したタテヤマスギが朽ちるまでには200年程かかるといわれている。タテヤマスギには腐りにくい樹脂が多い為である。藩政時代には桶等に利用する為、盗木が行なわれていた。



実生伏条幹を複数立ち上げるとともに、根が古株を伝って地面に到達する。古株の養分と地面からの養分で、根が急激に発達して古株を覆うように成長する。

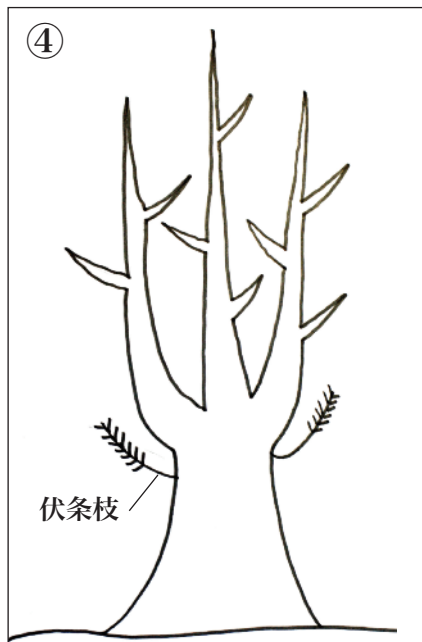


古株更新の初期。根が一旦古株に浸透して、地面にまで到達している。



古株を根が覆い、やがて主幹となり、古株は朽ちて空洞化する。主幹が巨大であるのに、上部の幹が細いのはこのような成長過程にある。

急激に成長し、ここまで200年～300年が経過するが、まるで樹齢500年の巨木に見える。



上部も成長し、まるで単幹樹のように見える。その後巨大化したタテヤマスギの分岐部から伏条枝が出る。日当たりがよければ、枝は枯れずに幹へと成長する。



かつての主幹を取囲むように伏条幹が成長する。美女平の盧舎那杉はこのようにして形成されたと推察される。